

第 3 部会 審議分

「にいがた未来ビジョン」

(新潟市総合計画)

素案

《凡例》

赤 字 : 各部会の意見を反映して修正した箇所

# 目次

	頁
<b>I 基本構想</b>	
1 策定趣旨 . . .	5
2 まちづくりの理念 . . .	6
3 目指す都市像 . . .	7
<b>II 基本計画</b>	
1 総論 . . .	11
(1) 都市像を実現するために目指す姿 ・ 取り組む方向性	
(2) 土地利用方針	
(3) 行政運営方針	
2 本市を取り巻く状況 . . .	<b>29</b>
(1) 新潟市のあゆみ	
(2) 時代の潮流	
(3) 新潟市の現状	
3 政策・施策 . . .	<b>63</b>
(1) 政策・施策の体系	
(2) 政策・施策プラン	
4 区ビジョン基本方針 . . .	<b>120</b>

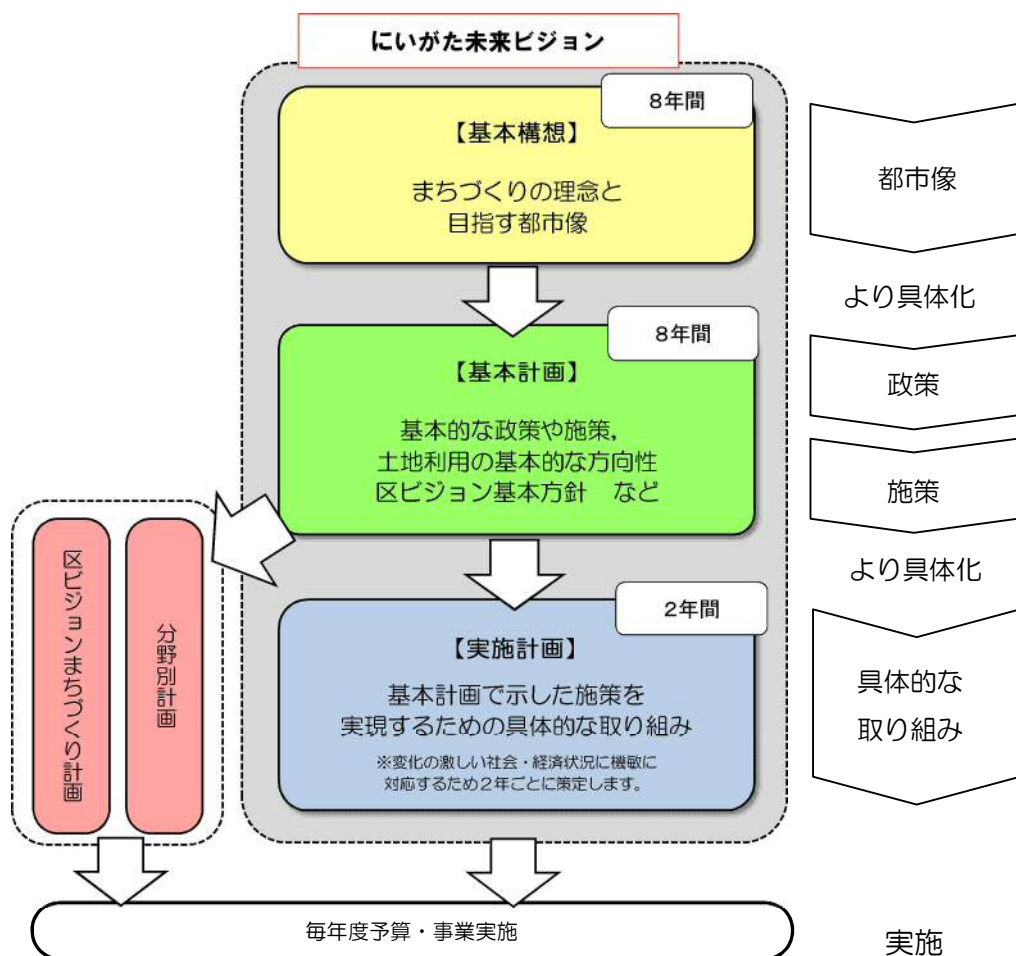
## 《計画の構成》

この計画は、本市が目指す姿の実現に向けたまちづくりについて「基本構想」「基本計画」「実施計画」で構成します。

「基本構想」は、本市の将来に向けたまちづくりの理念と、目指す都市像について示したものです。

「基本計画」は、基本的な政策や施策、土地利用の方向性、**区ビジョン基本方針**などを示したものです。

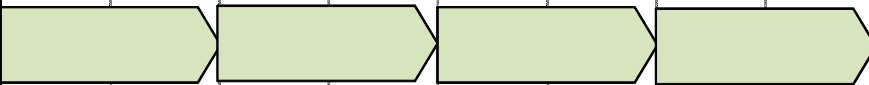
「実施計画」は、基本計画で示された施策の実現に向けた具体的な取り組みを示したものです。



## 《計画の期間》

基本構想・基本計画は、平成27年度から平成34年度までの8年間における本市の目指す姿（都市像）を示す計画とし、その実現に向けた政策と施策について掲載しています。

また、施策の実現に向けた具体的な取り組みを掲載する実施計画については、変化の激しい社会・経済状況に機敏に対応するため2年ごとに策定し進捗管理を行います。

	H27年度	28	29	30	31	32	33	34
基本構想	平成34年度を目標年次とします。							
基本計画	平成34年度までの8年間を計画期間とします。 ただし、大きな社会・経済状況の変化などにより必要に応じ見直します。							
実施計画	 <p>計画の着実な推進のため、社会・経済状況の変化を踏まえ、2年間の実施計画を策定し、具体的な取り組みを示します。また、実施計画にもとづき、毎年度の予算編成により緊急性や財政状況を踏まえながら予算化を行います。</p>							

## 《計画のポイント》

- ◎協働のパートナーである市民の皆さまに本市の将来をわかりやすく示します。
- ◎持続可能な財政運営などの観点から「選択と集中」を図ります。
- ◎社会・経済状況の変化へ機敏に対応します。

# I 基本構想

# I 基本構想

## 1 策定趣旨

本市は、平成17年3月及び10月の広域合併により、古くより互いに支え合ってきた新潟湊のまちと田園が一体となり、さらに平成19年4月より本州日本海側初の政令指定都市として歩みはじめました。

政令指定都市移行からこれまで、8つの区ではそれぞれの地域の歴史を踏まえ、共に支え合い、共に学び合っ、「共に育つ」ことを大きな理念としながら、「拠点化」と「個性化」を軸としたまちづくりを進めてきました。

市民と行政が協働し、区をひとつの単位とした特色あるまちづくりを進め、区自治協議会や地域コミュニティ協議会などを通じ、一体となって地域力・市民力を発揮し、「地域と共に育つ」分権型政令市へと大きく前進してきました。

また、田園地域と都市地域が互いに恵み合い、都市と自然・田園が調和するまちづくりを進めることにより、新潟の持つ歴史、文化に新たな光をあててきました。「食と花」を最大限活かし「大地と共に育つ」本市の個性を伸ばすとともに、本州日本海側の重要な位置で北東アジアに向かい合う地理的優位性と、国際拠点港湾新潟港や国際空港、高速交通網などの都市基盤を活かしたまちづくりにより「世界と共に育つ」本市の拠点性を高めてきました。

さらに、市民の安心でいきいきとした暮らしの基礎ともいえる身近な安全の土台を固めてきました。助け合いによる健やかな暮らしづくりや、公共交通の充実など快適な暮らしづくりによる「安心と共に育つ」新潟づくり、政令指定都市の権限を活かした、学・社・民の融合による教育の推進により、子どもと地域が共に学ぶことのできる場の充実、新しい文化と価値の創造など「市民が共に育つ」まちづくりを進めてきました。

これらの取組みを81万市民がそれぞれの立場で進め、政令指定都市としての土台を築きあげてきました。

政令指定都市移行から8年を経る間、中越沖地震、リーマンショックに端を発する世界的金融危機、3.11大震災など、当初予測できなかったさまざまなことが発生しました。今後は、さらなる環境変化に加え、急激な人口減少、少子・超高齢化の進行によるさまざまな影響への対応が求められます。

そのような中において、市民が明るく健やかに住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、目指す都市像を掲げ、まちづくりの主役である市民と共有し、協働していきます。

## 2 まちづくりの理念

地域・田園・自然の力を活かし、健康で安心して暮らせるまちづくり

日本海開港都市の拠点性を活かし、創造的に発展を続けるまちづくり

これまで81万市民は、地域力・市民力、食や伝統など「湊」「田園」に育まれた文化、開港都市としての拠点性をはじめとする多くの個性や強みを共に育ててきました。

本市は、これまで経験したことのない急激な人口減少、少子・超高齢社会を迎えており、今後は、さらに厳しい時代となることを見込まれます。今こそ、81万市民の総力を結集し、育ててきた多くの個性や強みを活かしながら、持続可能なまちづくりを進め、安心して健康な暮らしとまちの発展を実現させ、将来の世代に引き継いでいかなければなりません。

政令指定都市としての第2ステージを迎えた本市は、2つの「まちづくりの理念」のもと、安心と絆で結ばれた市民や地域が主役となり、田園・自然の持つ力を最大限引き出しながら、開港都市としてのさまざまな交流を創造的に実践することで、政令指定都市としての「成熟」を目指します。

### 3 目指す都市像

まちづくりの理念のもとで、市民一人ひとりが力を結集し、将来に向けた都市づくりを進め、本市が実現を目指す8年後の都市像を描くことで、まちづくりの主役である市民と将来像を共有し協働していきます。

都市像

I 市民と地域が学び高め合う、安心協働都市

II 田園と都市が織りなす、環境健康都市

III 日本海拠点の活力を世界とつなぐ、創造交流都市

都市像 I 市民と地域が学び高め合う、安心協働都市

共助と協働の輪が広がり、一人ひとりの人権が尊重され、男女共同参画が進むことにより、性別や年齢などに関わらず誰もが安心して暮らせる社会、持続可能な市民自治の仕組みができています。その土台の上で、地域の歴史と文化を活かした、個性的で真に自立度の高いまちづくりが進んでいます。

それぞれの地域では、高齢者をはじめ誰もが安全で快適に暮らせる地域づくりにより、地域の住民がお互いに助け合い、市民一人ひとりが住み慣れた地域ですっと安心して暮らしています。

若者が地域に住まい、働き、子どもを安心して産み育てられるまちが形成され、子どもをはじめ、家族と地域に笑顔があふれています。

学・社・民の融合による教育の推進とともに、農業体験など地域の特長を活かした教育環境が整うことで、地域に誇りを持ち、自分の力に自信を持つ心豊かな子どもたちがたくましく成長するなど、市民一人ひとりが学び高め合っています。

本市は、これまで培われてきた地域の絆を大切に、市全体の一体感を保ちながら、生活のそれぞれの場面がしっかりとつながることで、地域力と市民力が発揮され、子どもから高齢者まで共に生涯楽しく元気に暮らすまちが実現しています。



## 都市像Ⅱ 田園と都市が織りなす、環境健康都市

本市は、湊町として栄えてきた拠点性と、日本海、二つの大河、潟など多彩な水辺空間、豊かに広がる田園や里山などの自然環境を併せ持っており、それらが織りなす魅力にあふれたまちづくりが進んでいます。

それぞれの地域では、暮らしの中に農業体験や豊かな食文化などが根付き、一人ひとりの市民がまちに対する誇りや愛着をもちながら、食と農を通じたさまざまな域内交流が活発に行われるなど、市民がいきいきと暮らし、まちの魅力が向上しています。

地域の豊かな魅力が活かされ、公共交通により誰もが容易に行けるまちなかでは、高齢者や若者など、多くの人が集い、にぎやかで活気にあふれており、人と環境にやさしい元気で快適なまちづくりが進んでいます。

豊かな自然や田園と都市が共存する本市の特徴を活かすことで、ほかの大都市にはない魅力ある働き方が生まれ、仕事を求める誰もが、それぞれにふさわしい働き方により社会で自己実現を果たし、いきいきと輝いています。

## 都市像Ⅲ 日本海拠点の活力を世界とつなぐ、創造交流都市

本市が誇る農業や食をはじめとする個性と拠点性が活かされ、**既存産業の高度化やさまざまな魅力的な産業の創出が図られる**とともに、太平洋側に偏っている機能の日本海側への移転が進み、大規模災害に対する国土の安全性が高まり、まちの成長につながっています。

産業が生まれ育つことで、多くの魅力的な雇用の場が創出され、都市の活力に満ちあふれています。そして、魅力的な雇用の場は首都圏などからの多くのＩターン、Ｕターンにもつながり、都市の活力が増しています。

食と花や自然、文化やスポーツなど本市の魅力を発揮し、人、物など多様な交流が盛んに行われ市内経済の活性化が図られています。

本市の魅力は国を越えて注目され、さまざまな分野における交流がさらに広がり、世界に開かれたまちとして国内外に認められています。

本州日本海側唯一の政令指定都市である本市は、その拠点性と、食と花に代表される豊かな個性を活かして、さまざまな交流をつなぎ、発展を続けています。



## ■政策⑤「地域資源を活かすまち」

## 《8年後の姿》

～田園と都市のそれぞれの魅力が調和し、農業体験や豊かな食文化などにより、市民がまちに対する誇りや愛着をもちながら、さまざまな活動が行われるなど、市民がいきいきと暮らし、まちの魅力が向上しています～

- 「食と農」による地域づくりが進み、市民が「食文化」や「田園」に誇りをもっています。
- 農業が果たす新たな価値が創り出され、さまざまな分野・産業との連携が広がっています。
- 「水と土」などの地域の個性を活かしたまちづくりが進み、まちの魅力につながっています。
- 水辺や田園などの豊かな自然環境や、これまで受け継がれてきた歴史や文化など、本市特有の地域資源を活用したさまざまな活動が行われています。

## 《現状と課題》

○本市は、水田面積が市町村別で全国第1位であるとともに、「食と花の銘産品」として全国に誇るくろさき茶豆やルレクチエなどの農水畜産物を指定するなど、生産振興やブランド化を進め、販売の促進を図っています。

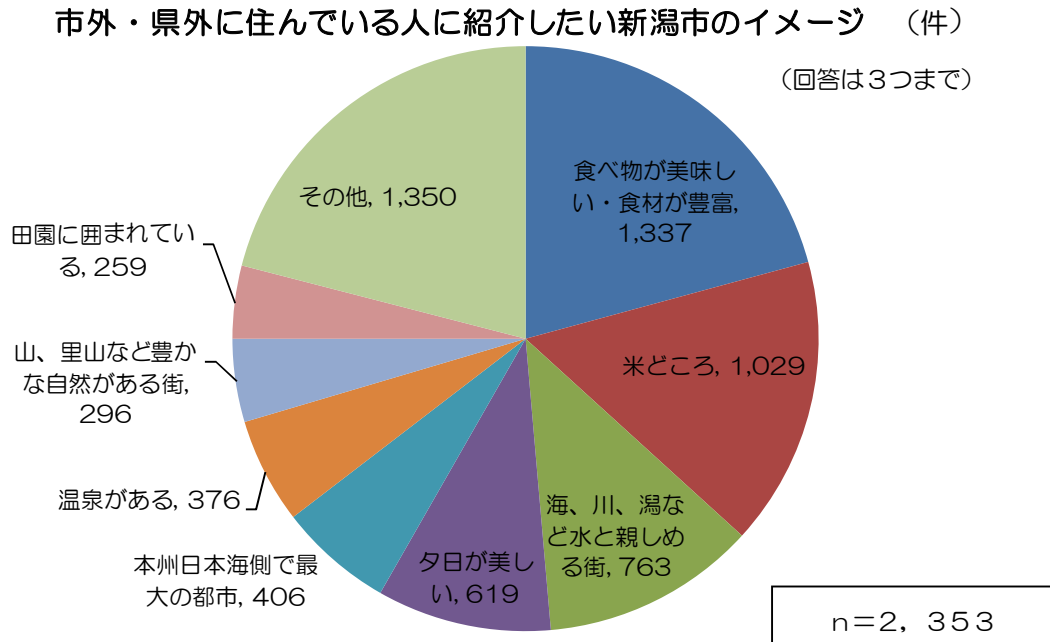
○市内在住者を対象に実施した平成21年度市政世論調査によると、市外・県外に住んでいる人に紹介したい新潟市のイメージは、「食べ物が美味しい・食材が豊富」や「米どころ」など「食」に関する項目が上位を占めており、次いで「海、川、潟など水と親しめる街」や「夕日が美しい」など「自然」に関する項目が挙げられています。また、県外在住者へのアンケートによると、「本市の魅力」を「食」と回答している人が最も多く、次いで「自然」が多く挙げられており、市内外の認識が一致しています。（図⑤-1）（図⑤-2）

○本市では、農業活性化研究センターや食品加工支援センターを新たに設置し、6次産業化への取組みを進めているとともに、全ての小学生が農業体験学習を通して農業の魅力などを学ぶ教育ファームを開始しているほか、ひきこもりにつながる若年無業者への農業を活用した若者自立支援や、障がいのある人の農業実習など、「農業」と多くの分野との連携が芽生えています。

○信濃川と阿賀野川の2つの大河に育まれた本市のアイデンティティである「水と土」をテーマに、平成21年と平成24年に「水と土の芸術祭」を開催し、「海と川」や「港」、「食と花」に焦点を当て、素晴らしい水辺空間や美しい景観を市民全体で共有・共感しただけでなく、市民自らが企画し運営する「市民プロジェクト」にも多くの市民から参加いただき、文化の創造に取り組んできました。今後も、水と土の象徴である「潟」に光を当てるなど、新たな魅力の創出や市民文化のウエーブを起こし続けることが求められています。

○市内には、地域に根差し、受け継がれる文化資源が数多くあります。それらを地域の活性化につなげるため、「新潟市民文化遺産」として、伝統芸能や旧跡などの文化遺産を認定し、地域の宝として維持・継承の機運醸成を図っています。

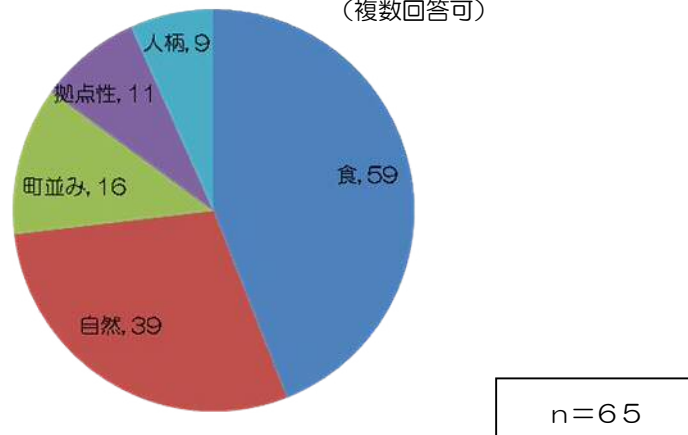
図⑤－１ 本市の魅力の現状（市内在住者）



資料：新潟市市政世論調査（H21）

図⑤－２ 本市の魅力の現状（市外在住者）

あなたが思う「新潟市の魅力」は、何ですか。（件）  
（複数回答可）



資料：県外にお住まいの新潟市サポーターアンケート調査（H25）

※新潟市サポーターズ倶楽部会員をはじめとした県外に在住の新潟市に愛着のある人を対象に実施したアンケート

---

## 《施策》

施策 14 食と農を通じた地域づくり

施策 15 まちの活力に活かす「水と土」

施策 16 地域の個性，歴史，文化に根ざしたまちづくり

---

施策 14 食と農を通じた地域づくり

・本市に暮らすさまざまな人が食育や農業体験などを通じて，田園の素晴らしさ，豊かな食，農業の魅力を学び，新潟に暮らす誇りをもちながら，地産地消による安全な食を通じて健康な生活につなげると同時に，食の生産地である田園と消費地である都市部との盛んな交流によりまちの活性化を図るなど，「食と農」による地域づくりを進めます。

・新たな農業関連産業の創出を図るため，農業の6次産業化や農商工連携に取り組むとともに，医療，福祉，子育て，教育，環境，観光といった視点を加えた12次産業化へと発展させ，農業の新しい価値を創造し，農業を核とした地域づくり・人づくりを進めます。

・農業・食分野に関わる大学や専門学校などとの連携を推進し，英知をまちの活性化に活かすとともに，新たな力を生み出す人づくりを進めます。

施策 15 まちの活力に活かす「水と土」

・海や川，潟などの水辺や，豊かな田園，里山など，本市のアイデンティティである「水と土」から新たな価値を創り出し，市民と地域の成長につなげるとともに，市民一人ひとりの生活における楽しみや市民交流の活発化を通して，まちに対する誇りや愛着を育むと同時に，まちの魅力の向上へつなげることで，交流人口の拡大を図ります。

施策 16 地域の個性，歴史，文化に根ざしたまちづくり

・これまで各地域で守り，受け継がれてきた豊かな自然や歴史，文化など，地域の個性を活かしたまちづくりを進め，それぞれのまちなかの活性化につなげるとともに，その魅力を内外に発信，地域間の連携を強化することで，都市全体の大きな魅力につなげ，交流人口の拡大を図るとともに，来訪者が住んでみたいと思うまちづくりを進めます。

## ■政策⑥「人と環境にやさしいにぎわうまち」

## 《8年後の姿》

～まち全体に活力があふれ、人と環境にやさしい快適なまちづくりが進んでいるとともに、誰もが容易に行けるまちなかでは、それぞれの魅力と活気があふれ、高齢者や若者など、多くの人が集い元気に賑わっています～

- まちに若者が集い学べる創造的な場が創出されるなど、まちなかがにぎわっています。
- 政令市新潟の顔としての都心の再生と、各地域の歴史や文化などの魅力を活かしたそれぞれのまちなか活性化の両輪でのまちづくりが進んでいます。
- 公共交通・まちなか活性・健幸都市づくりが連動し、誰もが移動しやすく、人々が楽しみながら健康になれる元気なまちなか環境が整っています。
- 人と環境にやさしい快適なまちづくりが進んでいます。

## 《現状と課題》

○本市では、15歳～19歳の世代における学業を理由とした県外転出が顕著であり、この世代においては同様の傾向が続いています。若い世代はこれからの本市のまちづくりを担う大切な人材であると同時に、まちの活力を向上させる大きな力であることから、本市で生まれ育った若者たちの転出を食い止め、本市で誇りをもって学ぶことができる環境づくりが必要です。（図⑥-1， 図⑥-2）

○本市の顔である都心においては、湊町としての歴史や文化を活かした風格ある街並みや景観を後世に残すとともに、さまざまな交流活動を通じて新たな投資を呼び込むことで新潟市全体の大きな活力につなげるよう、市民が誇りと愛着をもつ個性と魅力ある空間に変わっていくことが必要です。

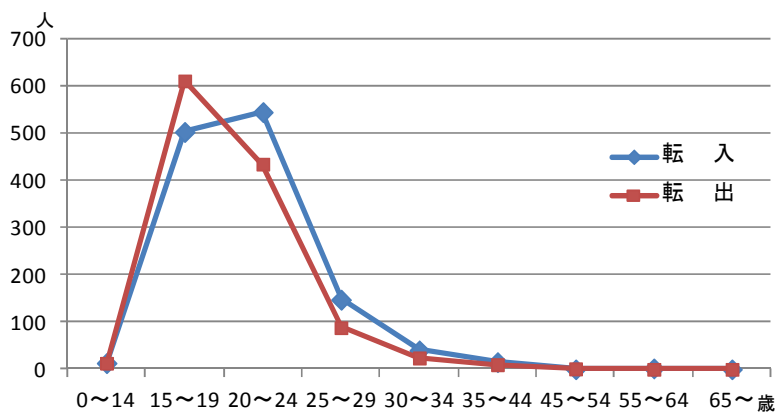
○本市では、市民の移動における自動車の利用割合が約7割と高くなっています。さらに、市政世論調査によると、市民の7割強の人が、「車に頼らなくても移動しやすいまちだと思わない」と回答しています。このまま自動車に依存し続けることは、運転できなくなる高齢者が増える超高齢社会に対応できなくなります。（図⑥-3， ⑥-4）

○本市のバス利用者はこの20年で3分の1にまで減っており、最近10年間を見ても40パーセント減少しています。また、バス運行便数は約20パーセント減少しています。（図⑥-5，⑥-6）

○平成24年度の新潟市8大学連携研究事業の研究成果において、高齢者の外出行動や公共交通利用は健康増進に寄与する可能性が示されたと報告されています。

○自動車依存度の高い本市は、市民が移動する際のCO<sub>2</sub>排出量が政令指定都市のなかでも高い方に位置しており、削減に向けた対策が急務となっています。（図⑥-7）

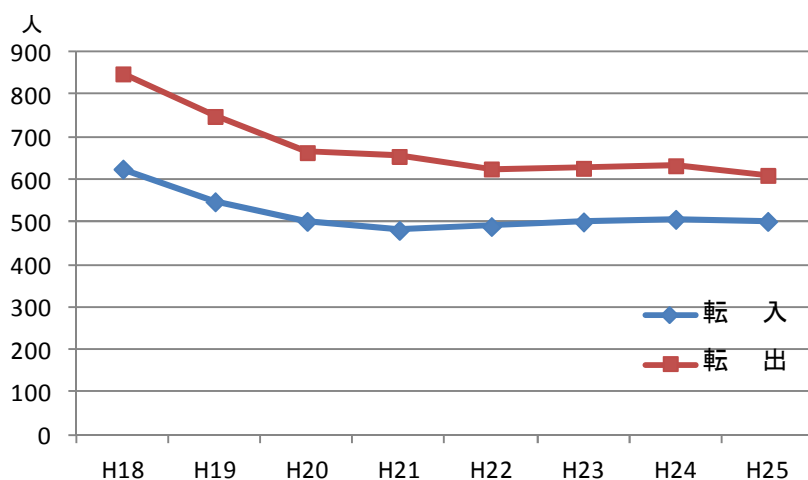
図⑥-1 学業を理由とした年齢階層別県外転入・転出者数



資料：新潟県人口移動調査（H25）

※転入：県外から市内への移動，転出：市内から県外への移動

図⑥-2 学業を理由とした15~19歳の県外転入・転出者数の経年変化

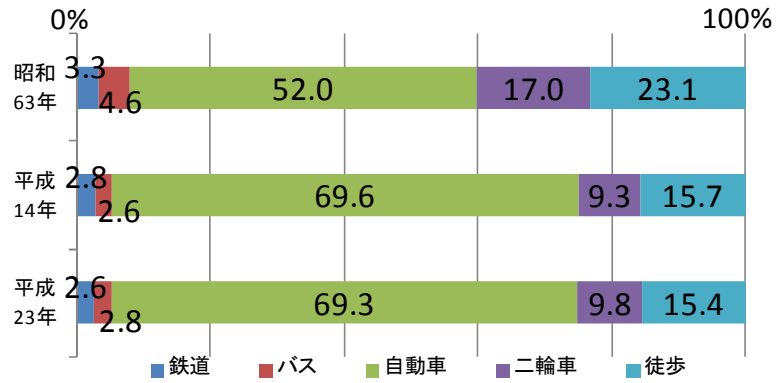


資料：新潟県人口移動調査（H18～25）

※転入：県外から市内への移動，転出：市内から県外への移動



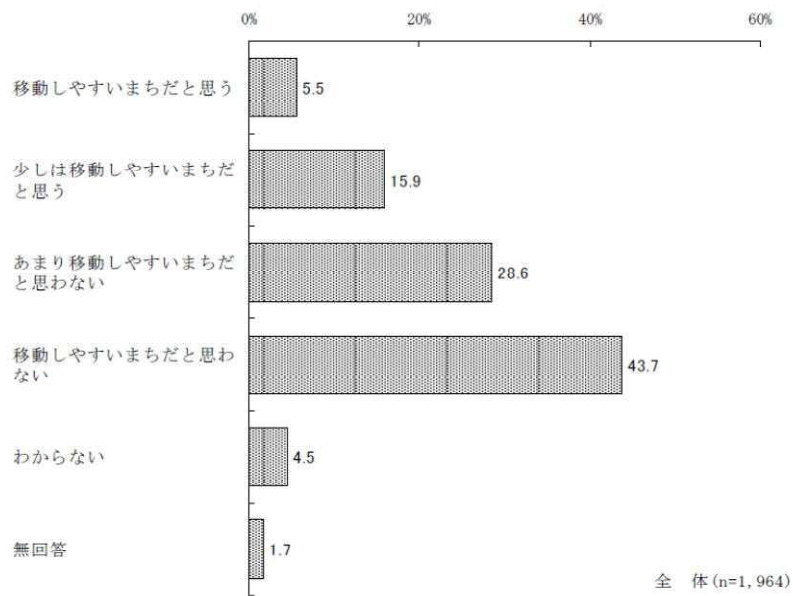
図⑥-3 本市における交通手段別構成比の推移



資料：新潟市

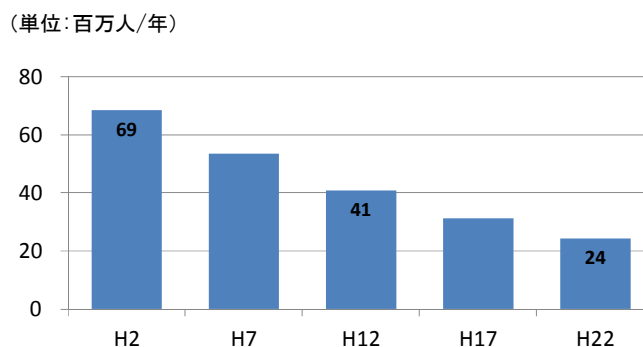
図⑥-4 本市の移動しやすさの現状  
(市政世論調査H25)

問29 あなたにとって、新潟市は車に頼らなくても移動しやすいまちだと思いますか。  
(○は1つだけ)



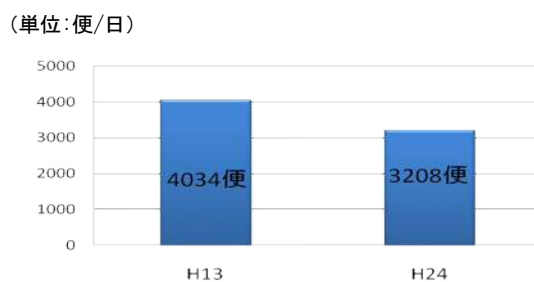
資料：新潟市

図⑥-5 バス利用者数の推移



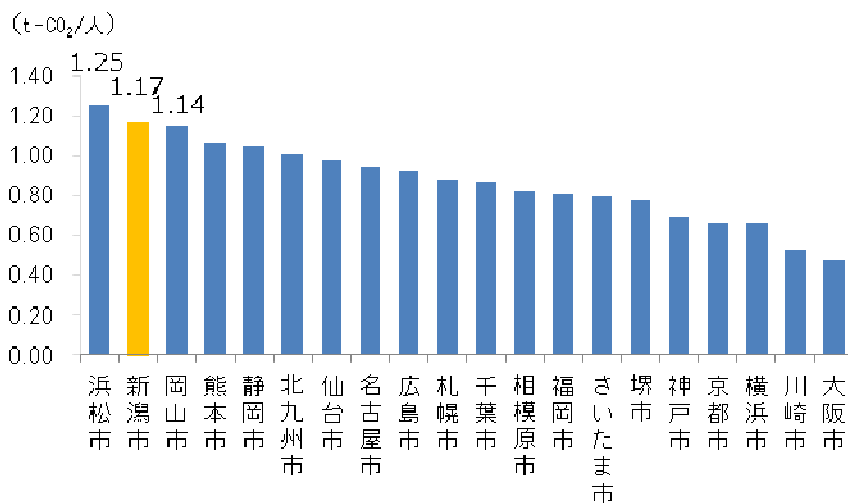
資料:新潟交通(株)データより

図⑥-6 バス運行便数の推移



資料:新潟交通(株)データより

図⑥-7 1人当たり乗用自動車CO<sub>2</sub>排出量



資料:新潟市(環境省簡易マニュアルによる市町村別CO<sub>2</sub>排出量推計(H22))

---

## 《施策》

- 施策 17 まちなか再生・都心軸の明確化
  - 施策 18 健幸都市づくり（スマートウエルネスシティ）の推進
  - 施策 19 持続可能な公共交通体系の構築
  - 施策 20 資源循環型社会への取り組み・低炭素型まちづくり
- 

### 施策 17 まちなか再生・都心軸の明確化

・それぞれのまちなかの魅力が高まり、多くの人がまちなかに集まるよう、大学など若者が集い学ぶ場への支援や賑わい空間の創出など、各地域の特色を活かしたまちなか活性化を図ります。

・新潟駅前・万代・古町を連動させた都市機能の向上による中心市街地の再構築や、掘割や商家、花街などの湊町としての歴史や文化を活かした景観づくりに取り組み、都心軸を明確化し、政令市新潟の顔としての都心の再生を図ります。

・多くの人が集い楽しくなる施設という視点で進めるファシリティマネジメントと公共交通のつながりを重視し、行きやすく、楽しく、元氣になれる場づくりを進めます。

### 施策 18 健幸都市づくり（スマートウエルネスシティ）の推進

・健康寿命の延伸に向け、公共交通や徒歩・自転車でもちなかに出かけ、楽しみながら行う健康づくりとまちづくりを連動させ、市民が生涯に渡って心身ともに健康に暮らしていける健幸都市づくり（スマートウエルネスシティ）を推進していきます。

### 施策 19 持続可能な公共交通体系の構築

・まちなか活性化や健康づくりなど社会環境の変化に対応し、バス・鉄道などの公共交通と自動車交通との適切な分担のもと、誰もが移動しやすく、まちなかにも出かけやすい持続可能な公共交通体系の構築を図ります。

## 施策 20 資源循環型社会への取り組み・低炭素型まちづくり

- ・市民・事業者・市の協働による、さらなるごみの分別徹底や、本市の特徴である田園環境を活かしたバイオマス資源の利活用により、資源循環型社会を構築します。
- ・将来の世代に健全で恵み豊かな環境を引き継ぐため、環境に配慮したライフスタイルへの転換やエネルギーの効率的な利用、再生可能エネルギーの普及などCO<sub>2</sub>排出量が少ない低炭素型のまちづくりを推進します。

## ■政策⑦「誰もがそれぞれにふさわしい働き方ができるまち」

## 《8年後の姿》

～仕事を求める誰もがそれぞれにふさわしい働き方をすることにより，社会で自己実現を果たし，一人ひとりがいきいきと輝いています～

- 女性や若者がやりがいをもって働ける環境が整っており，いきいきと働いています。
- ワーク・ライフ・バランスの考え方が，市民，企業に定着し実践され，一人ひとりのやりがいや充実感につながっています。
- 障がいのある人が，その能力と適性に応じた雇用の場に就き，地域で自立した生活をおくっています。
- ひきこもりなどの生活に困難を抱える人が，**農業など本市の特性を活かした**さまざまな**産業により**，自分にふさわしい働き方ができる環境が整うことで，いきいきとした暮らしにつながっています。

## 《現状と課題》

○今後，生産年齢人口が減少していくなか，まちの活力を維持向上していくため，女性，若者，障がいのある人，ひきこもりなどの生活に困難を抱える人など，誰もが働き社会参加していくことが必要です。

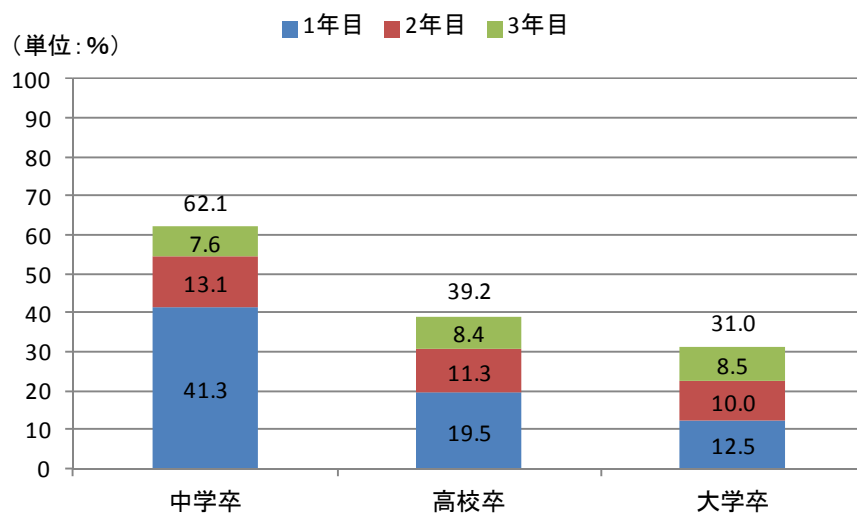
○中学，高校，大学の卒業3年以内のいわゆる若者の離職率が，中学卒62.1%，高校卒39.2%，大学卒31.0%となっており，近年離職率の低下の傾向はあるものの依然高い水準が続いているため，対策が求められています。（図⑦-1）

○約60万人の若者が，ひきこもりにつながる若年無業者（15～34歳の非労働力人口のうち，家事も通学もしていない者）となっている状況が，10年以上にわたり続いており，今後人口減少が加速していくなか，まちの活力を維持するため，若年無業者を減らす環境の整備が求められています。（図⑦-2）

○女性の就業率は、全国的に結婚・出産期に当たる年代に一旦低下し、育児が落ち着いた時期に再び上昇する傾向があり、本市においても同様の傾向が見られるものの、本市の30歳代の女性就業率は政令指定都市のなかで最も高くなっています。（図⑦-3，⑦-4）

○平成25年度の新潟県の障がい者雇用率は、都道府県比較でワースト2位の1.65%となっており、障がい者雇用率の改善が急務となっています。（図⑦-5）

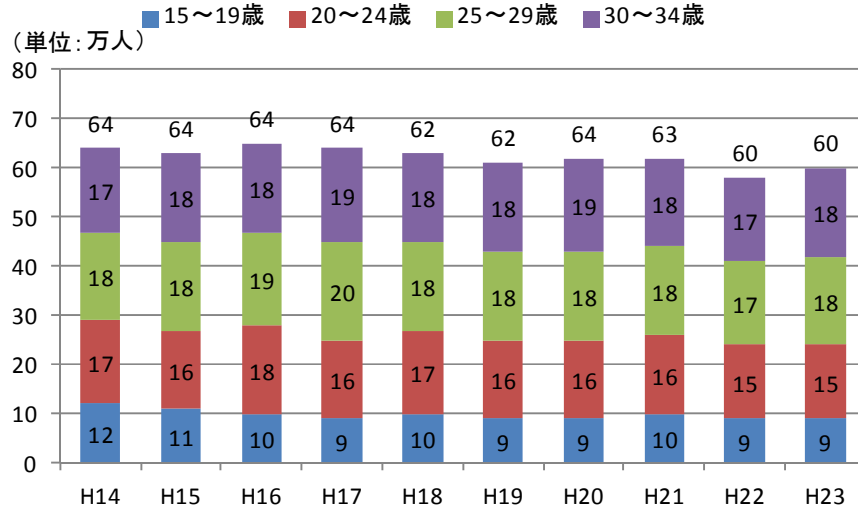
図⑦-1 全国の新規学卒者の離職状況



資料：厚生労働省職業安定業務統計

※いずれも平成22年3月卒業者の離職率

図⑦-2 若年無業者数の推移



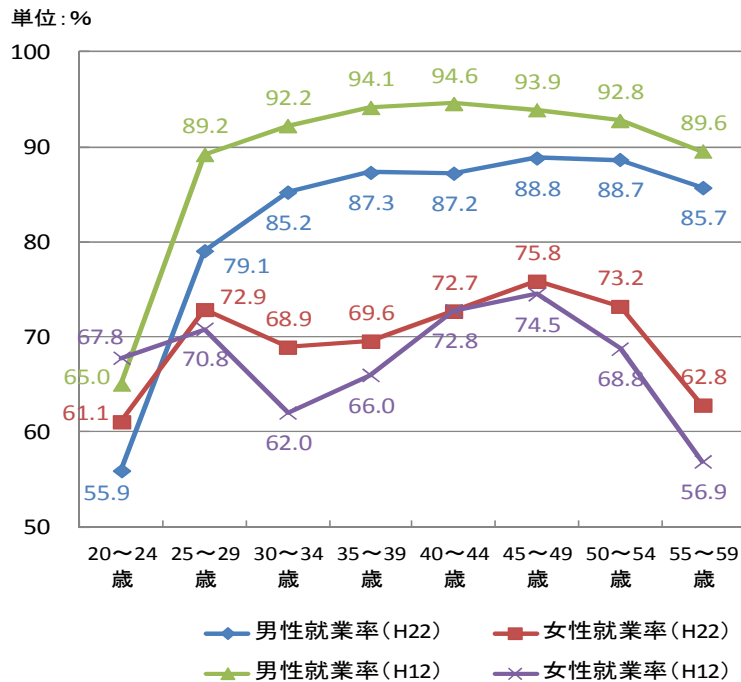
資料：総務省統計局「労働力調査」

※H22年3月卒業者の離職率

※H23のデータは、岩手県、宮城県及び福島県を除く全国の結果

※端数調整しているため、内訳と合計が一致しない

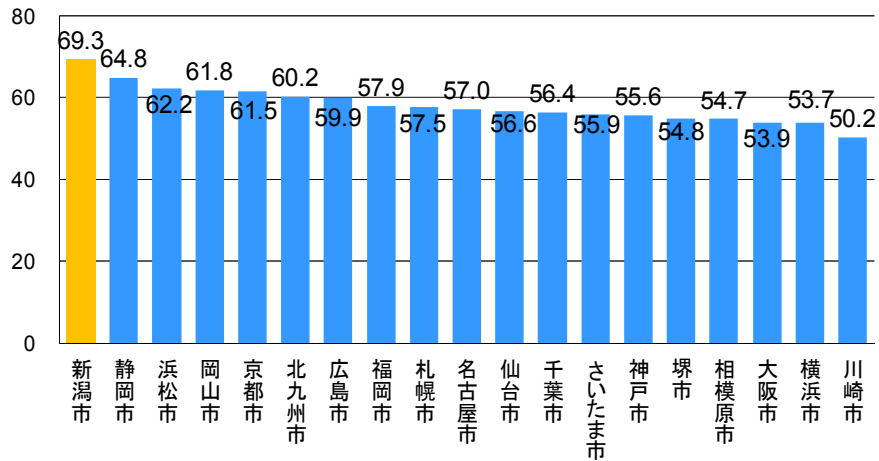
図⑦-3 年齢階級別就業率



資料：国勢調査

図⑦-4 30歳代の女性就業率

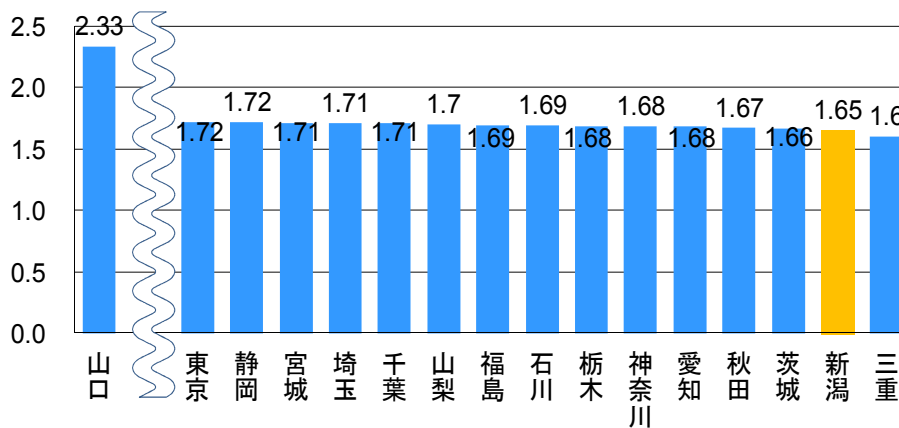
(単位：%)



資料：国勢調査(H22)

図⑦-5 障がい者実雇用率（都道府県比較）

(単位：%)



資料：厚生労働省資料(H25)



---

## 《施策》

施策 2 1 女性や若者がいきいきと働ける環境づくり

施策 2 2 障がいのある人などがいきいきと働ける環境づくり

---

施策 2 1 女性や若者がいきいきと働ける環境づくり

・女性が自身の望む働き方をして自己実現を果たすことは、社会の活力維持につながることから、一人ひとりが安心して働き、意欲や能力を十分に発揮できる環境づくりを進めます。

・若者が働くことを通して社会的に自立し、自信をもって夢や目標に向かって動き出せるよう環境づくりを進めます。

施策 2 2 障がいのある人などがいきいきと働ける環境づくり

・障がいのある人が誇りをもって自立した生活をおくることができるよう、就労やその後の定着への支援の充実を図っていきます。

・自然、田園をはじめとした本市の特性を活かした農業体験などを通じて、ひきこもりなどの生活に困難を抱えた人の就労に向けた環境づくりを進めます。



## 4 区ビジョン基本方針

各区のすがた	・ ・ 1 2 1
北区	・ ・ 1 2 4
東区	・ ・ 1 2 8
中央区	・ ・ 1 3 2
江南区	・ ・ 1 3 6
秋葉区	・ ・ 1 4 0
南区	・ ・ 1 4 4
西区	・ ・ 1 4 8
西蒲区	・ ・ 1 5 2

「区ビジョン基本方針」は、区をメインステージとして地域が主体となったまちづくりを進めるため、各地域が持つそれぞれの特色を踏まえた、区におけるまちづくりの基本的な方針です。

各区では「区ビジョン基本方針」に基づき、「区ビジョンまちづくり計画」を策定し、市民と協働してまちづくりを進めていきます。

# 各区のすがた



## 《人口・面積》

項目		北区	東区	中央区	江南区
人口・面積	人口(人)	77,621	138,096	180,537	69,365
	面積(km <sup>2</sup> )	107.92	38.77	37.42	75.46

## 《農・工・商業》

農業	農家戸数(戸)	1,523	241	183	1,327
	農業就業人口(人)	3,069	515	375	2,506
	経営耕地面積(ha)	4,344	667	444	3,225
工業	事業所数(所)	181	220	161	124
	従業員数(人)	6,105	8,156	2,287	5,111
	製造品出荷額等(億円)	2,528	2,911	374	1,184
商業	事業所数(所)	557	1,167	2,647	722
	従業員数(人)	3,929	10,194	20,775	6,297
	年間商品販売額(億円)	1,202	5,292	12,824	2,401

(資料) 人口・面積：国勢調査(H22) 国土交通省国土地理院(H25)

農・工・商業：世界農林業センサス(H22) 経済センサスー活動調査(H24)



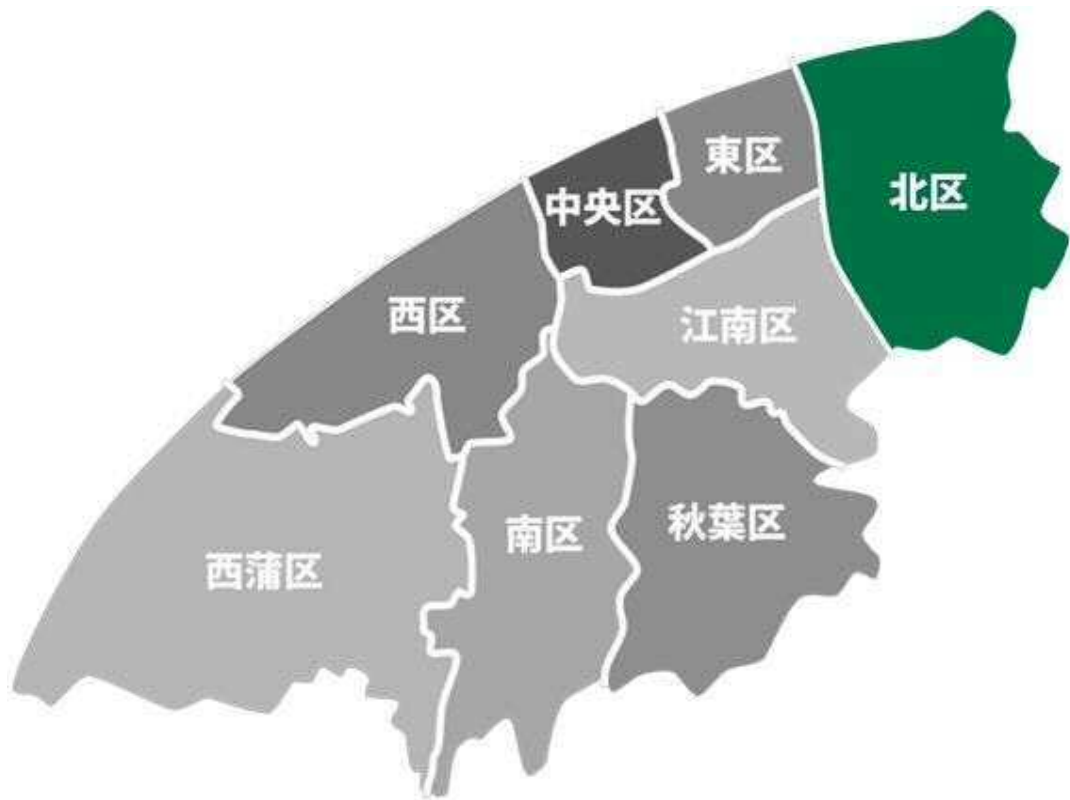
秋葉区	南区	西区	西蒲区	項目	
77,329	46,949	161,264	60,740	人口(人)	人口・面積
95.38	100.83	93.81	176.51	面積(km <sup>2</sup> )	

1,239	1,781	1,185	2,204	農家戸数(戸)	農業
2,162	3,627	2,491	4,323	農業就業人口(人)	
3,347	5,348	3,912	7,156	経営耕地面積(ha)	
95	131	87	161	事業所数(所)	工業
2,648	5,354	1,497	4,274	従業員数(人)	
664	1,427	279	683	製造品出荷額等(億円)	
632	465	1,088	575	事業所数(所)	商業
4,084	3,305	9,829	3,215	従業員数(人)	
884	2,854	5,315	891	年間商品販売額(億円)	



# 北 区

《自然・活力・安らぎにあふれるまち  
—住みたくなるまち 北区—》



# 北 区

## 【区の概要】

### 《地理》

北区は、阿賀野川以北に位置し、東は新発田市、聖籠町に、南は阿賀野市に隣接しています。区内には、福島潟などの湖沼、阿賀野川などの河川、海岸線の松林や見渡す限り広がる田園風景など、豊かな自然環境があります。(図1) また、区内にある新潟東港は、本州日本海側で最大のコンテナ取扱量を誇る国際拠点港湾として発展しています。

### 《産業》

国際拠点港湾-新潟東港を擁する日本海側最大規模の新潟東港工業地帯は、優れた交通アクセスに恵まれ、工業拠点や対岸貿易の玄関口として発展しており、活発な生産活動が行われています。

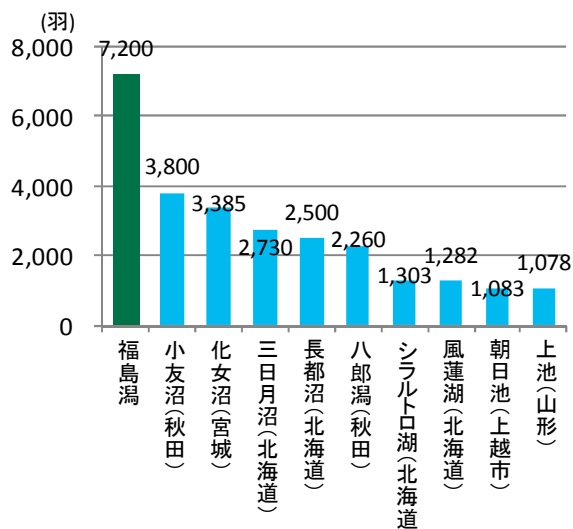
また、農業分野では、稲作をはじめ多様な生産活動が行われており、砂丘園芸、施設園芸などは高い評価を受けています。なかでもトマトとなすは県下一の出荷量を誇っています。(図2)

### 《交通》

主要な道路は、日本海東北自動車道、国道7号、国道113号が東西に通り、県道、市道と結ばれています。鉄道は、幹線道路と平行してJR白新線が通っており、4駅が設置されています。バスは、市の中心部及び新発田方面へと運行されているほか、区バス・住民バスなどが区内の移動手段としての役割を担っています。

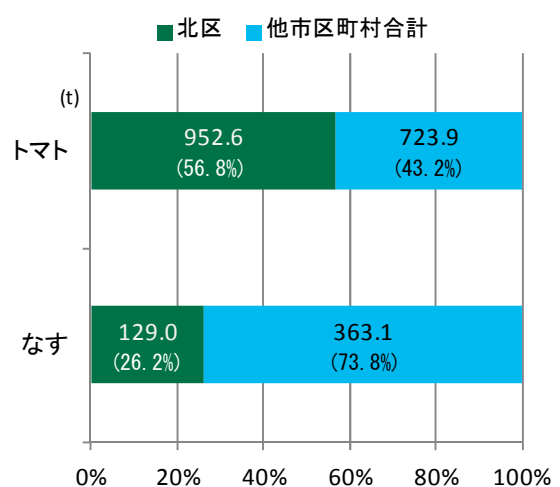
図1 ヒシクイの最大飛来数

(亜種オオヒシクイ、亜種ヒシクイ含む)



資料：平成25年度重要生態系監視モニタリング推進事業(環境省自然環境局)ガンカモ類調査業務 2012/13 調査速報の資料に基づき作成

図2 区の県内における出荷量の割合



資料：全農にいがた (H25)



## 【区の将来像】

《自然・活力・安らぎにあふれるまち 一住みたくなるまち 北区一》

## 【目指す区のすがた】

《豊かな自然と共生するまち》

- 福島潟をはじめ、阿賀野川などの河川、海岸や田園風景など、先人たちが残してくれた豊かな自然環境や水辺空間を保全し、自然と共生するまちを目指します。
- 豊かな自然環境を積極的に活用することで、その新たな魅力を引き出し、市民が憩えるまちを目指します。

《都市機能が充実したまち》

- 道路整備や公共交通サービスのさらなる充実を図ることにより、利便性の高いまちを目指します。
- 国際拠点港湾-新潟東港の港湾施設の整備及び港湾機能の拡充を目指します。
- 豊栄駅周辺のまちづくりと都市基盤整備の充実を目指します。

《活力ある産業のまち》

- 産学官の連携による新産業の育成や企業立地環境の整備を推進し、雇用の場の創出を目指します。
- 地域の魅力を活かした商業の振興を図り、活力あるまちを目指します。
- 安心安全な農水産物を供給するとともに、6次産業化を推進し、「稼げる」農水産業を目指します。自然や文化資源を活かし「キテ・ミテ・キタクなるまち」を目指します。

《学びあい、健康で、人にやさしいまち》

- 支えあい、助けあいを大切に、安心していつまでも健康で暮らせるまちを目指します。
- 学びあいやふれあいを通して、地域に誇りを持てる人づくりを目指します。
- 子育て支援の環境を整え、子どもを安心して産み育てることのできるまちを目指します。
- 文化・スポーツ活動を通して、区民のさらなる一体感の醸成を目指します。

## 《安心安全で暮らしやすいまち》

- 福祉，安全，教育など，さまざまな地域課題に対して，自治会・町内会，地域コミュニティ協議会，区自治協議会などと協働して解決にあたり，豊かで安心して暮らせるまちを目指します。
- 地域の自主防災組織と連携するなど，防災体制の強化を図るとともに，防犯活動や交通安全の推進に取り組み，人にやさしく安心で安全なまちを目指します。

# 東区

《豊かな産業とやすらぎの水辺が調和し、  
笑顔と元気があふれる、空港と港があるまち》



# 東 区

## 【区の概要】

### 《地理》

東区は市の中心部から東側に展開した市街地であり、市を代表する工業地域として発展してきました。区の北側は日本海に面し、西部に信濃川と栗ノ木川、東部に阿賀野川が流れ、中央部には信濃川と阿賀野川の流路として水運を担った通船川が、区の東西を横断する形で流れています。また、空と海の玄関口である新潟空港と新潟西港を有しており、大勢の利用客で賑わっています。

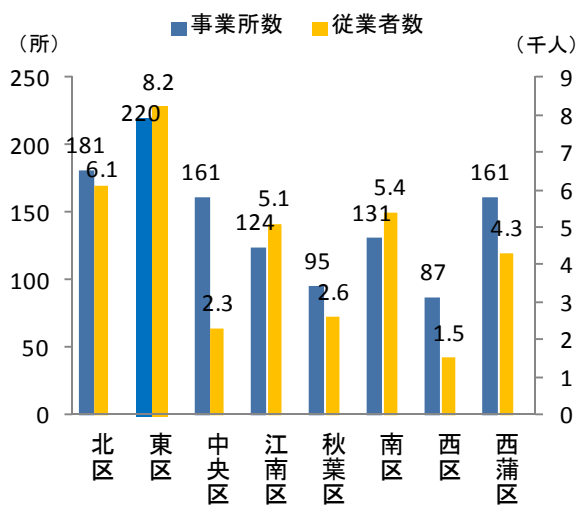
### 《産業》

区内には工場が集積し、また、多様な規模の卸売業や小売業などがあり、商工業が発達しています。(図1, 2) 農業は、区の東部に広がる水田地帯を中心に行われている稲作のほか、区内に点在する農地で、やわ肌ねぎやじゃがいもをはじめとしたさまざまな農産物が生産され、地産地消を目指した取り組みが行われています。

### 《交通》

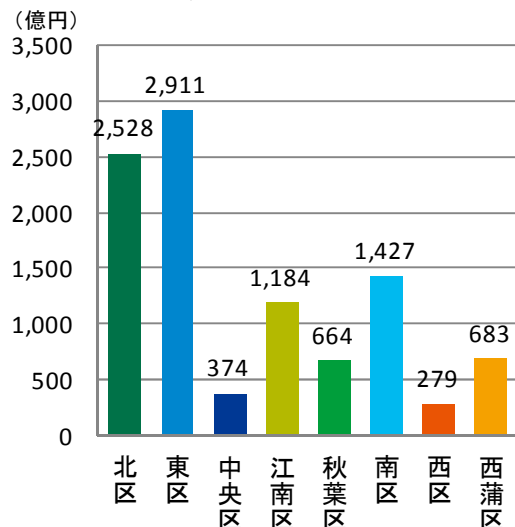
東西方向に走る国道7号、国道113号、県道新潟新発田村上線と、南北方向に走る県道新潟港横越線(通称：赤道)などの主要幹線道路が結ばれることにより、優れた交通基盤を形成しています。鉄道は、区の南部にJR信越本線とJR白新線が通っており、3駅が設置されています。バスは、市の中心部と結ばれた路線が、主に東西方向に運行されています。

図1 製造業の事業所数及び従業者数(区別)



資料：経済センサス-活動調査 (H24)

図2 製造品出荷額等(区別)



資料：経済センサス-活動調査 (H24)

## 【区の将来像】

《豊かな産業とやすらぎの水辺が調和し、笑顔と元気があふれる、  
空港と港があるまち》

## 【目指す区のすがた】

《心地よく暮らしやすいまち》

- 進行する少子・超高齢社会の中で、子どもから高齢者まで誰もが健康で安心安全に暮らせるまちを目指します。
- 交通の利便性の向上を図り、快適な生活環境づくりを推進することにより、暮らしやすいまちを目指します。
- 区民との約束である「東区サービス憲章」を遵守し、行政サービスの向上に努め、信頼される区役所を目指します。

《人が育つまち》

- 地域・学校・家庭・行政が連携して未来の担い手である子どもたちの育ちを支援するとともに、地域の課題解決や生きがいづくりに繋がる生涯学習の機会を充実させることにより、多様な人材が育つまちを目指します。

《地域の力が活かされるまち》

- 地域で活動している各種団体への支援を充実させ連携を図ることにより、地域の力が発揮できるまちを目指します。

《魅力あふれるまち》

- 産業のまち、豊かな水辺に囲まれるまち、空と海の玄関口のまち、という東区の魅力を区内外に発信し、活力あるまちを目指します。



# 中央区

《歴史と文化の薫りただよう、  
うるおいと にぎわいのまち》



# 中 央 区

---

## 【区の概要】

### 《地理》

中央区は、新潟市の放射状に伸びる交通軸の要に位置し、北は日本海に開け、中央には信濃川、東に栗ノ木川、西に関屋分水路、南に鳥屋野潟、さらに海岸線の白砂青松という水と緑に囲まれた地域です。

区内は土地の高度利用が進み、さまざまな都市機能が集積する一方で、国の重要文化財に指定された萬代橋やみなとまちの歴史的建造物など、伝統的文化を感じることのできるまちなみも存在しています。

### 《産業》

古町、万代、新潟駅周辺に代表される市街地の商業集積がにぎわいを見せ、ヒト・モノ・情報が活発に行き交う、本市の商業の中心となっています。(図1)

また、江戸時代初めから北前船で技術が交流し磨き育てられた伝統的工芸品の新潟漆器と、良質な水を生かした酒、味噌、醤油、こうじ、漬物などの発酵食品も有名であり、これらを活かした新たな取り組みが進められています。

### 《交通》

高速道では、北陸道、磐越道、日本海東北道の3路線の結節点を擁し、一般道では国道7号、同8号、同116号などのほか、県道や市道が中心市街地に向けて整備されています。

鉄道は、3駅が設置されており、新潟駅には、上越新幹線のほか、在来線では信越本線、白新線、越後線が集まっています。(図2)

バスは、市中心部に向けて、また郊外に向けて多様な路線が運行されています。

海路では佐渡航路があり、信濃川においても水上シャトルバスが運行されています。



## 【区の将来像】

《歴史と文化の薫りただよう、うるおいと にぎわいのまち》

## 【目指す区のすがた】

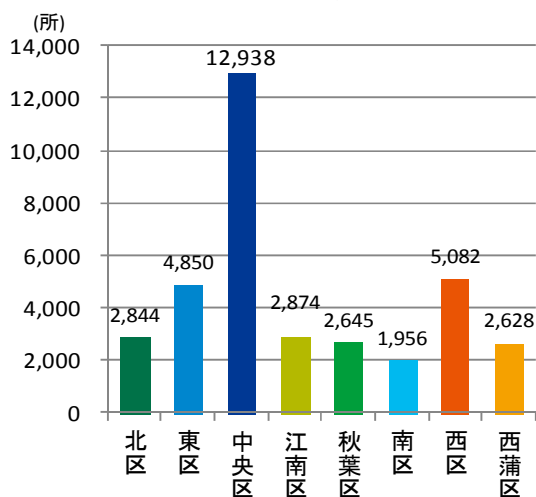
《魅力的で活力あふれる拠点のまち》

- さまざまな都市機能が集積した都心を有する区として、ヒト・モノ・情報が活発に行き交い、住む人、働く人、学ぶ人、そして訪れる人にとって魅力的で、賑わいあふれるまちを目指します。
- 美しい景観形成に努めるとともに持続可能な公共交通体系の整備を進め、まちなかの活性化を図ることにより、子どもからお年寄りまで誰もが出かけたくなる利便性の高い、活力に満ちたまちを目指します。

《安心してすこやかに暮らせるまち》

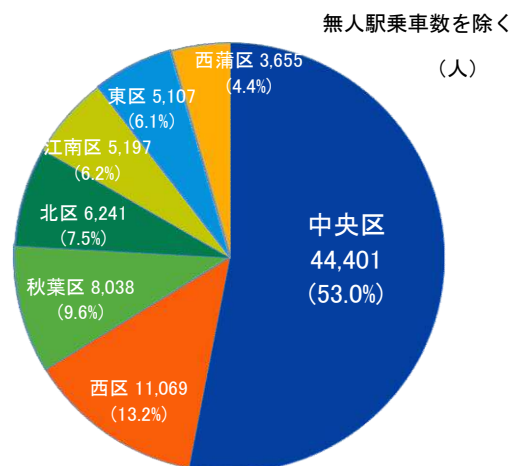
- しも町をはじめ少子高齢化が進展する中、区民のつながりを大切にして地域コミュニティを充実させ、互いに支え助け合い、誰もが安心して健やかに暮らせるまちを目指します。
- 多様な人々が行き交う生活環境において、子どもたちを安心して生み育てる環境の整備に努め、家庭・地域・学校が連携を深めることで子どもたちが健全に育まれるまちを目指します。
- 自然災害や都市型災害等、発災時に区民一人ひとりが適切な判断と行動をとれるような仕組みづくりやコミュニケーションづくりを進め、災害に強いまちを目指します。

図1 事業所数（区別）



資料：経済センサス-活動調査（H24）

図2 JR駅一日平均乗車数（区別）



資料：東日本旅客鉄道(株)「各駅の乗車人員(H24)」

### 《水と緑が調和したやすらぎのあるまち》

- 都心部を流れる信濃川とともに、鳥屋野潟、日本海の豊かな水辺や緑を守り育むことで愛着と誇りをもち、自然と共生できるやすらぎのあるまちを目指します。

### 《未来につなぐ歴史・文化のまち》

- 開港5港の一つとして古くから栄えた風情あふれるみなとまち文化を受け継ぐとともに、食文化の交流や新たな産業の創出・育成に取り組むことにより、さまざまな文化が融合した、未来につながるまちを目指します。
- 新潟まつりをはじめ、各地域に伝わる歴史・文化を若い世代に語り継ぐことで、住む人々が文化の継承や街並みの保存に対する意識を高め、郷土を大切に作る人づくりのまちを目指します。

# 江南区

《緑と調和した、賑わいと安らぎのあるまち》



# 江南区

## 【区の概要】

### 《地理》

江南区は、本市のほぼ中心に位置し、西蒲区以外の全ての区と接しています。信濃川、阿賀野川、小阿賀野川、日本海東北自動車道に囲まれ、亀田、横越、曽野木、大江山、両川の5つの地区で構成されており、豊かな自然環境と都市機能の調和が図られています。

国の登録有形文化財の北方文化博物館や、<sup>きよいこう</sup>御衣黄という緑色の花を咲かせる珍しい桜があることでも有名な北山池公園、スポーツ・文化の拠点である亀田総合運動公園（アスパーク亀田）など、人々が集い、憩いの場となっています。

### 《産業》

土地改良事業により整備された広大な優良農地では、**稲作**のほか、なす、梅、梨、いちご、とうもろこしなどの生産による都市近郊型農業が展開されています。（図1）

交通の利便性が高い工業団地、食品団地では製造業が盛んで、大型ショッピングセンターや中央卸売市場は人・物の交流の場として、賑わいを見せています。（図2）

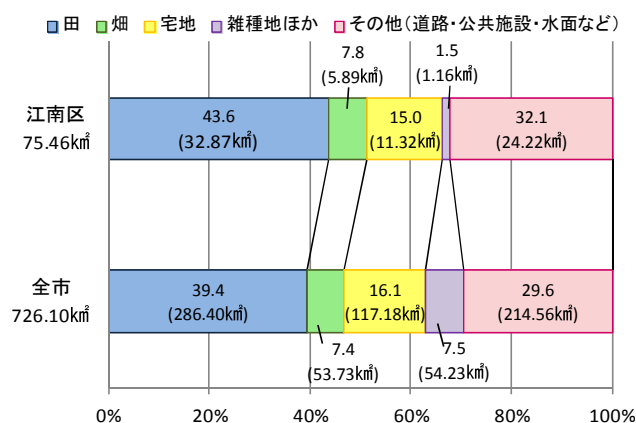
### 《交通》

主要な道路である、日本海東北自動車道、磐越自動車道をはじめ、国道49号、国道403号、県道などの結節点となっています。

鉄道は、JR信越本線が通っており、1日平均乗車人員が約5千人を超えるJR亀田駅があります。

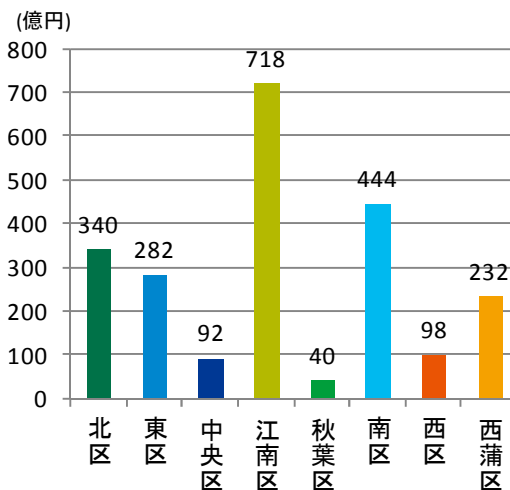
バスは、市中心部や新津方面などを結んで運行されているほか、区バス・住民バスが身近な公共交通として利用されています。

図1 江南区の土地利用割合



資料：新潟市（H26.1.1）

図2 食料品製造業出荷額(区別)



資料：経済センサス（H24）

## 【区の将来像】

《緑と調和した、賑わいと安らぎのあるまち》

## 【目指す区のすがた】

《豊かな自然と都市機能の調和が取れたまち》

- 主要な道路の結節点やJR信越本線を有する交通の要衝としての利便性を活かして、人と物が交流し誰もがいきいきと快適に生活できるよう、道路や公共交通などの環境整備を進め、都市機能の向上を図ります。
- 緑豊かに広がる田園風景と信濃川、阿賀野川、小阿賀野川を結ぶ水と緑のネットワークづくりやその活用と、資源循環型社会を目指した環境にやさしいまちづくりを推進するなど、自然環境との共生を図り、未来の世代につなげます。

《人と人とのつながりを大切にする安心安全なまち》

- 震災、風水害、津波災害などさまざまな自然災害から区民の生命と財産を守るため、地域の特性を踏まえた災害に強いまちづくりを進めます。  
自らの安全は自ら守り、地域の安全は地域で守る交通安全・防犯意識の高い地域社会の実現を目指します。
- 住み慣れた地域で、生涯を健やかに安心して暮らせるまちを目指します。  
誰もが気軽に立ち寄れる場や活動の拠点づくりを進めるとともに、「ふれあいと支えあい」を大切にし、人と人とのつながりを感じられるまちを目指します。

《創造的な産業を育む活力のあるまち》

- 地元の多様な農産物を活用することで、農業と商工業の連携による創造的な産業の育成を図り、江南区ならではの個性と魅力あるものづくりを進めるとともに、新たな雇用の創出を目指します。
- 地域が一体となり、そこに培われた風情や歴史など“地域らしさ”を感じさせる、活力と魅力にあふれた賑わいのあるまちなかを創出し、交流人口の拡大を目指します。

### 《未来に向けて人が輝き文化が育まれるまち》

- 将来を担う大切な人材である子どもたちの健やかな成長に向けて，学校と家庭や地域が連携して学・社・民の融合により，教育力の向上を図ります。
- 先人から受け継がれた歴史や伝統を継承し，多様な文化芸術にふれる機会の創出や市民が気軽にスポーツに親しめる環境づくりなど，さまざまな個性が発揮でき，生涯にわたり人が輝くまちを目指します。

### 《区民がまちづくりの主役として輝くまち》

- さまざまな地域課題解決に向けて，区自治協議会，地域コミュニティ協議会，自治会・町内会等との協働をさらに深め，区民が主役となる自治の実現を目指します。
- 江南区サービス憲章に基づき，区民の立場に立って迅速・丁寧な対応を目指すとともに，多様な区民の声を大切にする区役所づくりを進めます。

# 秋葉区

《花と緑に囲まれた，笑顔咲きそろう，  
にぎわいのあるまち》



# 秋 葉 区

## 【区の概要】

### 《地理》

秋葉区は、新潟市の南東に位置し、東西を阿賀野川、信濃川の二大河川に囲まれ、北には小阿賀野川、そして秋葉山、菩提寺山などの里山・丘陵地に囲まれた緑豊かな自然環境に恵まれています。また、鉄道や石油のまちとして知られ、新津鉄道資料館や石油関連施設、古津八幡山遺跡などの貴重な歴史文化遺産が多く残っている地域です。なお、人口は8区の中で4番目ですが、高齢化率は最も高い状況にあります。(図1)

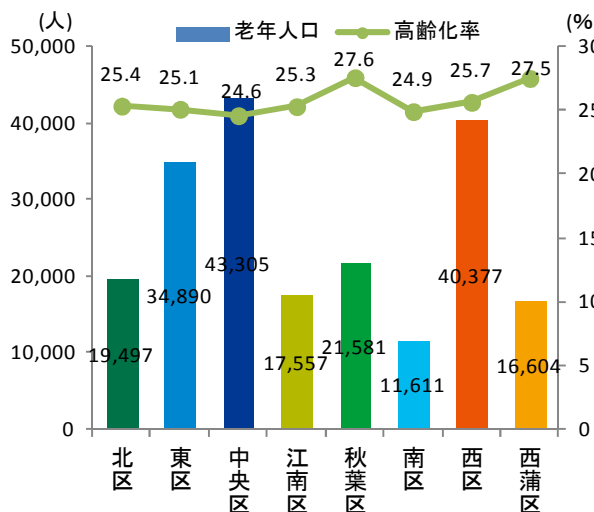
### 《産業》

花き・花木類の生産は区の大きな特色のひとつであり、特にアザレア、ボケは日本有数の産地として知られています。(図2) 工業分野では輸送用機械や電子部品の生産も盛んです。さらに、産学官連携により、食品機能性をはじめとしたバイオテクノロジーを活用した研究開発が行われ、新産業の創出や産業技術の高度化を図っています。

### 《交通》

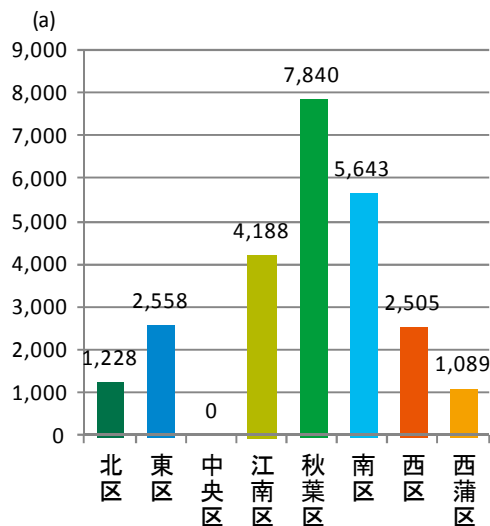
国道403号が南北に、国道460号が東西に通っているほか、新潟と福島を結ぶ磐越自動車道の新津インターチェンジ、新津西スマートインターチェンジがあります。鉄道は、区内に7つの駅が設置されており、新津駅ではJR信越本線、羽越本線と磐越西線が交わっています。磐越西線を走る「SLばんえつ物語」号が、4月～11月の週末を中心に運行しています。バスは新津駅を中心に市中心部、南区や五泉市方面などへ運行され、区民の足として、秋葉区・区バスを運行しています。

図1 老年人口と高齢化率(区別)



資料：住民基本台帳人口 (H26.3 末現在)

図2 花き類・花木栽培面積(区別)



資料：新潟市統計書 (H25)



## 【区の将来像】

《花と緑に囲まれた，笑顔咲きそろう，にぎわいのあるまち》

## 【目指す区のすがた】

《うるおいとやすらぎのあるまち》

- 緑豊かな里山秋葉丘陵と信濃川や阿賀野川，新津川，能代川はやすらぎと潤いをもたらす，これらの恵まれた自然環境を次世代に引き継ぐべき貴重な財産として，保全と活用に努め，人と自然が調和した美しい景観のまちを目指します。
- 環境に配慮したライフスタイルへの転換を市民協働で取組み，低炭素型・循環型・自然共生型社会の実現を目指します。

《楽しく元気なまちなかとやさしさのあるまち》

- 産学官，地域が連携した，活気あふれる，楽しく，元気なまちなかを目指します。
- 地域との協働による，持続可能なまちづくりのための強固な土台づくりに努め，安心・安全なまちを目指します。
- みんなが支え合い，健康でいきいきと暮らせる，やさしさのあるまちを目指します。
- 「森育」「花育」「食育」など，秋葉区の特徴を活かしながら，魅力ある子育て・教育環境が整った，次世代を育むまちを目指します。

《歴史と個性を活かすまち》

- 里山や鉄道，石油，花き・花木，町屋など，秋葉区固有の歴史ある文化や宝物を内外へ積極的に情報発信し，地域とともに，個性を活かした交流のあるまちを目指します。
- 秋葉区固有の文化の継承と創造による文化活動の振興と，スポーツを通じた健康で豊かなスポーツ活動の振興に努め，文化とスポーツの拠点のまちを目指します。

《花のまち・食のまち・育てるまち》

- 全国屈指の花き・花木の園芸産地としての拠点性を一層高めながら，優良農地を活用し，環境にやさしい安心・安全な農産物の供給を目指します。
- 新潟薬科大学，商店街などと連携した食品産業の振興を図り，ニューフードバレーの推進につながる食によるまちづくりを目指します。

## 《生み出し活かすまち》

○これまで培われてきた産業を育成するとともに、バイオ技術に関する学術・研究の拠点化と、産学官、地域が連携して新たな可能性を発信するまちを目指します。

# 南区

《大地の恵みと伝統・文化にはぐくまれた  
郷土愛にあふれる、生き生きと暮らせるまち》



# 南 区

---

## 【区の概要】

### 《地理》

南区は本市の南部に位置し、南北に長い地形で、市内8区の中で西蒲区、北区に次ぐ広大な面積を有しています。

地勢は平坦で、区の東側を信濃川が、中央を中ノ口川が流れ、両河川によってはぐまれた肥沃な農地が広がっています。

また笹川邸（国重要文化財旧笹川家住宅）や、昭和初期の懐かしい駅舎と列車を残す旧月潟駅など、歴史や文化に親しめる場が数多く存在しています。

### 《人口》

人口減少、少子・超高齢化が急速に進む近年、南区においては、平成22年の国勢調査を基準とした区別将来推計人口によると、平成37年までに8区中2番目に大きな減少率が見込まれ、65歳以上の人口割合については、8区中最も高い伸び率が予想されます。

### 《産業》

仏壇や鎌などの伝統的な地場産業や工業団地の立地により製造業が盛んです。（図1）

農業分野では、稲作や果樹が盛んで、西洋ナシのルレクチエや日本ナシ、桃、ぶどうなど数多くの果物が生産されています（図2）。野菜や花の産地としても知られ、食用菊やチューリップ切り花が有名です。さらに、アグリパークや、多くの観光農園ではさまざまな体験を通して農業の楽しさや大切さを学ぶことができます。

また、世界最大級の白根大凧合戦など、数多くのイベントを活用した観光分野にも力を入れています。

### 《交通》

主要な道路は、国道8号が南北に、国道460号が東西に通り、県道、市道と結ばれています。

南区内には軌道系の交通機関がなく、市中心部、秋葉区、西蒲区、加茂市、燕市方面など、区外と結ぶ路線バスのほか、区内では、区バスや住民バス、タクシーを活用したデマンド交通が主要な公共交通としての役割を担っています。

## 【区の将来像】

《大地の恵みと伝統・文化にはぐくまれた

郷土愛にあふれる、生き活きと暮らせるまち》

## 【目指す区のすがた】

《ひととひとがふれあい、安心していつまでも暮らせるまち》

○信濃川と中ノ口川の両河川によってはぐくまれる豊かな自然環境と調和した、安心・安全で、住みよいまちを目指します。

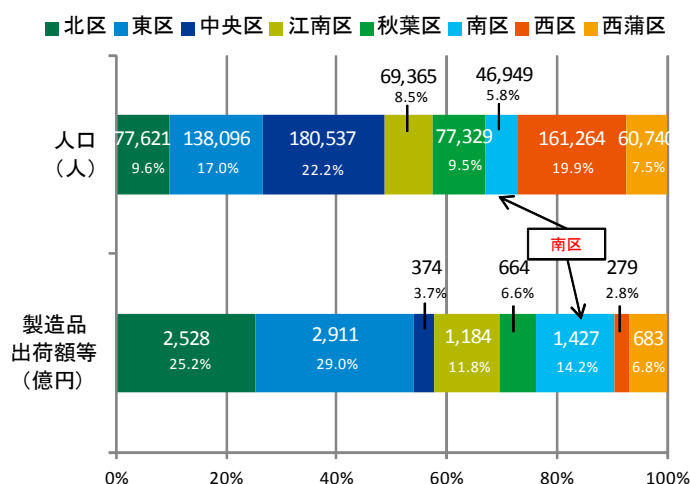
○子どもから高齢者まで地域の中で、支えあい、学びあい、はぐくみあう、笑顔があふれるまちを目指します。

○地域力・市民力を発揮する、区民みんなが主役となるまちを目指します。

《誰もが快適に移動できる交通の利便性が高いまち》

○都心や近隣地域、区内各地域へのアクセスの向上を図り、都市基盤と公共交通の機能強化を進め、すべての人にとって、交通の利便性が高いまちを目指します。

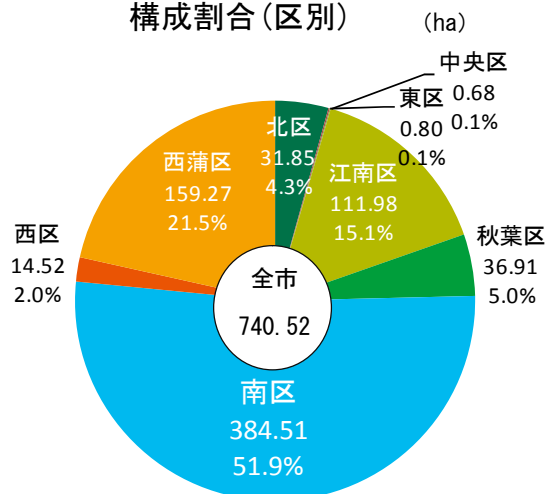
図1 人口と工業の構成割合(区別)



資料：国勢調査 (H22),

経済センサス-活動調査 (H24)

図2 樹園地(果樹畑)総面積の構成割合(区別)



資料：新潟市統計書 (H25)

### 《農商工の連携が、新たな活力を生み出すまち》

- 良質で新鮮な農産物の生産を続けてきた特性を基盤とし、農業活性化研究センターと連携し、先進的な取り組みを実践しながら、付加価値の高い農産物を供給するまちを目指します。
- 歴史と伝統に支えられた確かな技術の継承と、商店街の活性化を進めながら、農業・商業・工業が相乗的に発展する、誰もが生き活きと働けるまちを目指します。

### 《大凧が舞い、獅子が跳ね、ル レクチエが実るまち》

- 四季折々に楽しめる食と花をはじめ、勇壮な白根大凧合戦や大庄屋の風格を今に伝える笹川邸、江戸時代から伝わる郷土芸能角兵衛獅子など、多様で豊富な観光資源の魅力を発信し、交流の輪が広がるにぎわいのあるまちを目指します。

# 西 区

《都市と農村が融合する、うるおいの  
住環境と優れた学術環境に育まれるまち》



# 西 区

## 【区の概要】

### 《地理》

西区は、信濃川及び関屋分水路以西に位置し、坂井輪地区、西地区、黒埼地区で構成されています。区内は鉄道沿線や幹線道路沿いを中心に良好な住宅地が形成され、西には砂丘畑、南には田園地帯が広がり、都市部と農村部がバランスよく存在しています。(図1) また、河川・潟・海などの豊かな水環境に恵まれているとともに、大学などの学術研究機関が多くあります。(図2)

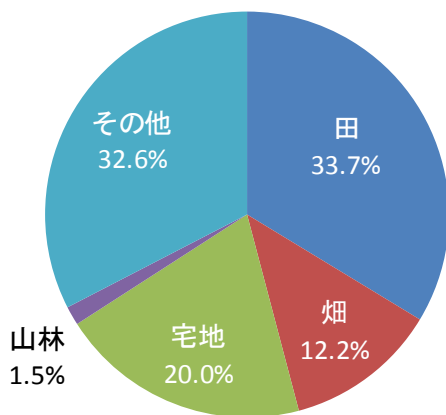
### 《産業》

幹線道路沿いには、物流基地の流通センターや多くの商業店舗が立地しています。農業分野では、稲作を主体としながら畑作も盛んで、黒埼茶豆・新潟すいか・赤塚大根などが県内外に知られています。また、新潟砂丘さつまいも「いもジェンヌ」などのブランド化が進められています。

### 《交通》

主要道路は、区の東側を南北に北陸自動車道が通り、新潟西インターチェンジ・黒埼スマートインターチェンジがあるほか、国道116号や国道8号・国道402号が通っています。鉄道は、市街地を東西に結び、JR越後線の駅が7つ設置されています。バス路線も主に東西に、市の中心部と結ばれていますが、南北のバス路線は住民バスが担っています。

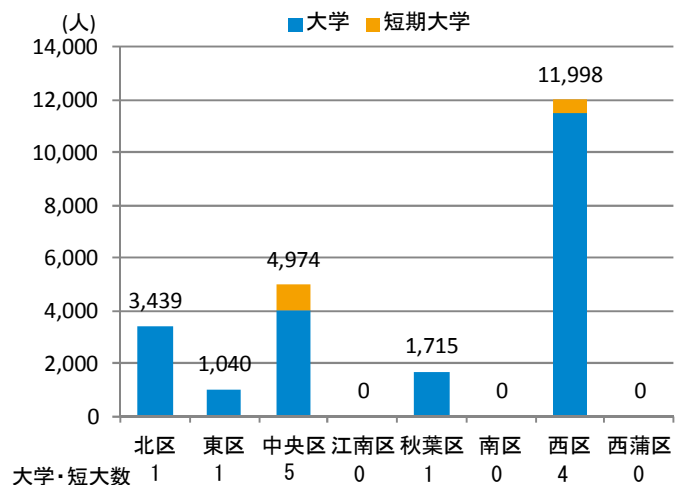
図1 西区の土地利用割合



※その他：道路、公共施設、水面、自然地など

資料：新潟市 (H26.1.1)

図2 大学・短期大学在学学生数(区別)



大学・短大数 1 1 5 0 1 0 4 0

資料：各校ホームページ (H25)



## 【区の将来像】

《都市と農村が融合する，うるおいの住環境と優れた学術環境に育まれるまち》

## 【目指す区のすがた】

《人と人がつながり，安心・安全に暮らせるまち》

- 地域の中で人と人とのつながりを大切にし，区民が安心していつまでも元気で健康的に生活できるまちを目指します。
- 災害時に素早く対応するとともに被害の最小化を図り，災害に強い安心・安全なまちを目指します。

《都市と農村が融合するまち》

- 良質で魅力的な農産物の生産を進め，特産物のブランド化を推進します。また，特産物を県内外に発信し，さらに農商工連携により付加価値を高めるとともに，商店街の活性化にもつなげていきます。
- 都市と農村が融合する西区の特性を活かして，生産と消費をつなぎ，さらなる一体感の醸成を図ります。

《だれもが学び合える学術と文化のまち》

- だれもがいつでも学び合える環境や，学びを活かして地域に貢献できる環境づくりを推進します。
- 地域の文化や歴史を大切にし，新たな文化の創造を支援するとともに，スポーツの振興を図ります。

《豊かな自然と快適な住環境を大切にするまち》

- ラムサール条約登録湿地である佐潟をはじめ，河川や海岸などの美しい景観を未来に引き継いでいきます。また，その自然を活かした観光や魅力あふれるスポットについて情報発信することにより交流人口を増やし，活力のあるまちを目指します。
- うるおいのある快適な住環境づくりを推進し，明るい笑顔で住みたい・住んで良かったと思えるまちづくりに努めます。

## 《地域と区役所が共に歩むまち》

- 地域における自治を推進し，区民と区役所が協働で地域課題に取り組む体制をさらに強化します。
- 区民が笑顔になれるように，区役所職員がおもてなしの精神で親切・丁寧なサービスを提供します。

# 西蒲区

《豊かな自然，歴史と文化のかおりに  
満ちあふれ，人と人があたたかくつながるまち》



# 西 蒲 区

---

## 【区の概要】

### 《地理》

西蒲区は本市の西部に位置し、南区、西区及び長岡市、燕市、弥彦村と隣接しており、区内は巻、漆山、峰岡、松野尾、角田、岩室、西川、湯東、中之口の9地区で構成されています。

区の東側は美しい田園が広がるとともに、西側は日本海に面し風光明媚な越後七浦海岸と角田山、多宝山、上堰潟などがあり、豊かな自然環境と観光資源に恵まれています。

### 《産業》

西蒲区の基幹産業は農業であり、稲作のほか、本市の「食と花の銘産品」に指定されている「越王おけさ柿」、「巨峰」、いちじく「越の雫」をはじめとする果樹や、砂丘地帯を中心に多様な園芸作物の生産も盛んです。

また、確かな技術が求められる工業製品の製造を担う多くの事業所や、航空機部品製造の分野で最先端技術を駆使する特徴ある企業などが事業を展開しています。

さらに、恵まれた自然環境や観光資源を活かした観光も重要な産業であり、なかでも新潟の奥座敷と呼ばれている岩室温泉は、本市唯一の温泉街として県内外から多くの観光客が訪れます。

### 《交通》

区外に向けた幹線交通は、区の中央を南北に縦断するJR越後線と、東部を縦断し多数の高速バスが走る北陸自動車道があり、交通結節点として巻駅・越後曽根駅・岩室駅の3駅と、大規模駐車場を備える巻湯東インターチェンジが重要な役割を果たしています。

また、区内の移動を担う交通として、各交通結節点に接続する路線バスが運行されています。

主要な道路は、区の中央を国道116号、海岸線を国道402号がそれぞれ南北方向に通っており、それらを結ぶ国道460号が東西方向に通っています。

## 【区の将来像】

《豊かな自然，歴史と文化のかおりに満ちあふれ，  
人と人があたたかくつながるまち》

## 【目指す区のすがた】

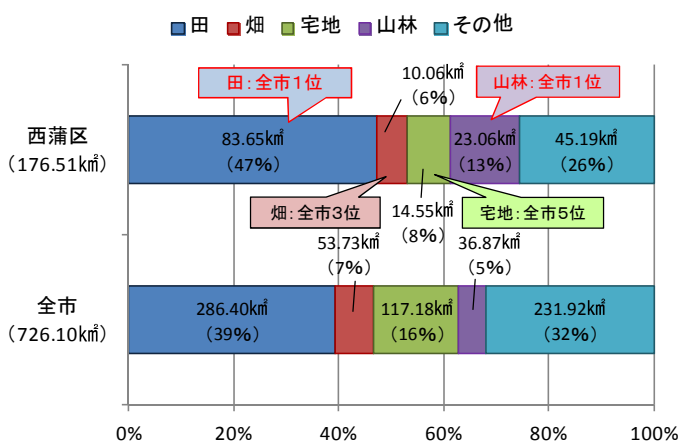
《魅力あふれる農水産物を供給するまち》

- 田園型政令市にふさわしい広大な優良農地や，日本海に面し漁港を備える立地を活かし，高品質で多様な「西蒲ブランド」の農水産物の供給拠点となるまちを目指します。(図1)
- 体験農園や観光漁業などを通じ，生産者と消費者の交流を深めていくとともに，生産から加工，販売まで手がける6次産業化の推進などにより農業・漁業の魅力を伝え，将来の担い手が育つまちを目指します。

《観光とレクリエーションのまち》

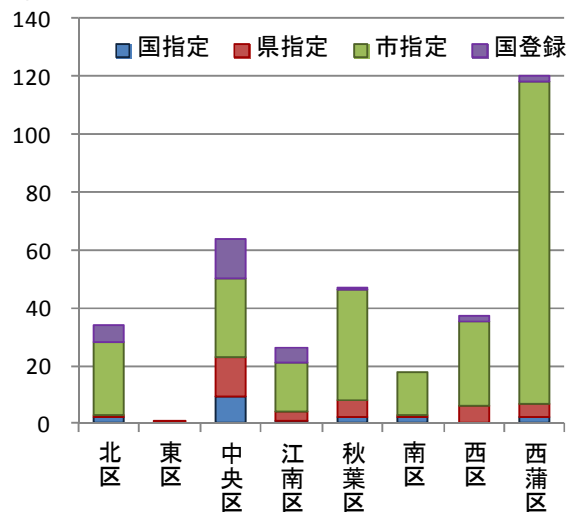
- 越後七浦海岸や角田山，多宝山，上堰湯などの豊かな自然環境や数ある歴史的文化遺産と岩室温泉を有機的に結び，多彩な楽しみ方ができる観光拠点となるまちを目指します。
- 超高齢社会に対応し，豊かな自然環境を活かしたウォーキングや，高齢者向けの競技を含む各種スポーツの推進などにより，多様なレクリエーションの普及を図り，「健幸」づくりのまちを目指します。

図1 西蒲区の土地利用割合



資料：新潟市 (H26. 1. 1)

図2 市内の指定・登録文化財件数(区別)



資料：新潟市文化財調査概要 (H24)

### 《歴史と文化を守り伝え続けるまち》

- 角田山のふもとに点在する数多くの遺跡などに光をあて、いにしへの時代からこの地に連綿と続く人々の営みについて、それらを学ぶ環境と語り部を育み、将来にわたり伝え続けます。
- 江戸時代、さまざまな文化を伝えた北国街道や、郷土玩具の「鯛車」、「のぞきからくり」、「越後傘ぼこ」など、西蒲区に古くから伝わる文化を内外に発信し、後世まで守り伝え続けます。(図2)

### 《人が行き交う活力あふれるまち》

- 西蒲区の実情に合った公共交通を構築し、誰もが移動しやすい環境を整えることで地域の交流促進を図り、人が行き交う賑わいのあるまちを目指します。
- 高速交通アクセスに恵まれた立地条件を活かした新たな企業誘致の推進や、商工業のさらなる振興により雇用創出と定住者確保を図ることで、活力あふれるまちを目指します。

### 《人の和でつながる安心・安全なあたたかいまち》

- 地域ぐるみで支えあう人の和を醸成し、誰もが笑顔で安心して暮らし続けられる、あたたかみあふれるまちを目指します。
- 地域の誰もが次代を担う子どもたちの学びを支え、学び合いを通じて人と人とのつながりが生まれ、広がるまちを目指します。
- 区自治協議会、地域コミュニティ協議会、自治会、自主防災組織など、住民自治を担うあらゆる主体の連携を深め、課題解決に向けて地域全体で取り組む安心・安全なまちを目指します。